



目次

生産現場情報	： 共同購入トラクター：農家支援の新たな取り組み（後編）	P 1～3
営農支援情報	： 令和7年度の水稻生産技術対策について	P 4～8
ご 紹 介	： 頑張れ受験生！「サキホコレ」を食べて咲き誇れ ～サキホコレ受験生合格祈願キャンペーン	P 9
	令和6年産「サキホコレ」シンガポール店頭試食販売会を実施しました	P 10
お 知 ら せ	： フラワーバレンタイン2025	P 11

共同購入トラクター：農家支援の新たな取り組み（後編）

第57号掲載記事『共同購入トラクター』：農家支援の新たな取り組み（前編）に続く記事となります。

「共同購入」とは、JAグループが全国の生産者のニーズを取りまとめてメーカーに製品開発を依頼し、それを一括発注・購入をする取り組みとなります。メーカーの製造・流通を効率化することで価格を抑え、生産者の農機導入コストを低減させるといった効果があります。

JA全農は、第1弾の大型トラクターの共同購入、第2弾の中型トラクターの共同購入に続く第3弾として、コンバイン（4条刈、50馬力クラス）の型式を決定しました。共同購入の取組は第1弾、第2弾ともに好評で、目標を上回る台数を出荷しており（Vol.57掲載：前編参照）、今回も1,000台の販売計画を行っております。



第1弾 大型トラクター
ヤンマーアグリ製（YT357J、ZUQH）
出荷数：
2,214台（平成30年～令和3年供給）
価格削減率：約25～35%
主な機能：大型燃料タンク・自動水平制御・自動耕深制御・倍速ターン・オートブレーキ 他

第2弾 中型トラクター
クボタ製（SL33L）
出荷数：
約6,000台（平成30年～）
価格削減率：約20%
主な機能：大容量燃料タンク・ノークラッチ変速・倍速ターン・自動耕深制御機能 他

第3弾共同購入コンバイン（現在注文受付中） ヤンマーアグリ製（YH448AEJU）

第3弾の共同購入では、4条刈り50馬力クラスのコンバインを対象としています。このクラスのコンバインは、広い田んぼから小規模な耕作地まで幅広く利用されており、燃費や作業効率、安全性を重視した設計が求められています。JAグループは令和4年に7,000人以上の稲作生産者からアンケートで意見を集め、それを基に国内の農機メーカー4社に開発要求を行い、最終的にヤンマーアグリ株式会社が製造するコンバイン『YH448AEJU』が選出されました。

第3弾 4条刈・50馬力クラスコンバイン
ヤンマーアグリ製（YH448AEJU）
予定取扱数：
約1,000台（令和6年4月～）
価格削減率：約15～18%
主な機能：大型燃料タンク・常時駆動方式（FDS）・自動水平制御・自動こぎ深制御 他



『YH448AEJU』の厳選機能

第1弾・第2弾に続いてJAグループが全国の生産者に結集を呼びかけ、積み上げた必要台数を背景に入札を実施し、生産者の購入価格を引き下げることによって、『YH448AEJU』の価格は通常と同クラスのコンバインと比較して約15～18%抑えられています。生産者の需要を取りまとめ一括発注を行い、メーカーが製造・流通を効率化して生産コストが削減されました。

一般的に4条刈りのコンバインは1ha層から20ha層まで幅広く使われている実態があり、乗降時や機体転倒時の乗員保護、補助者への接触防止など、安全性も考慮し、付帯事項として、コンバインを長く使うため日常点検・調整・消耗品交換の容易化、各稼働部の耐摩擦性・強度向上を図ることや、転作も見据え、大豆や子実トウモロコシなどさまざまな転作に対応できるコンバインのラインナップやその装備の拡充が求められました。

『YH448AEJU』は必要な機能を集約し「生産者が必要な機能を厳選したコンバイン」をコンセプトに開発を依頼しています。

エンジン出力は50馬力クラスで燃料タンク容量は無給油で概ね1日作業ができる（約6時間）性能を求め、車体水平制御、幅広クローラ、刈取オートクラッチ、掻きこみペダル・スイッチ、オーガ自動制御（旋回・収納）、大型後方ミラーを標準装備としています。特徴的な常時駆動方式（FDS）で、湿った田んぼでも滑らかな旋回や安定した直進が可能となります。

さらにオプションとして、防塵カバーや作業灯、無線オーガリモコンなどが提供されており、作業環境の改善に一役買っています。

令和4年から使用されているアンケート形式の「事前申込書」です。
生産者たちの声を反映させました。

共同購入 第3弾 生産者&JA

共同購入コンバイン 誕生!!

全国7千名以上の稲作生産者の声を反映



型式 YH448AEJU
メーカー希望小売価格 **670万円(税抜)**

4条刈り
51.5馬力(のろス)
48.4馬力(ネット)

主な機能

- 車体水平制御
機体が左右に傾いても水平に保つ
- 常時駆動方式(FDS)
湿田作業でもなめらかな旋回と安定した直進ができる
- 自動こぎ深さ制御
- オーガ自動制御(旋回・収納)
- 刈取オートクラッチ
- 掻きこみペダル
- 手こぎ安全装置
- オートデセル(エンジン回転自動制御)
- 無給油で概ね1日作業(おおよそ6時間を想定)がおこなえる燃料タンク(43ℓ)

JAグループからのお願い
(お問い合わせは最寄りのJAまで)

注文いただいたから納品まで4カ月程度かかります。
令和9年5月までにご注文をお願いします。

JAグループは生産者の需要を取りまとめ、一括発注を行うことで、メーカーは製造・流通の効率化をはかり、生産者へ価格メリットを還元します。

共同購入コンバイン(4条刈り・50馬力クラス) 事前申込書

※この申込書は契約書ではありません。

全国の生産者が共同購入に結集し、低価格を実現しよう!

・みなさんの事前申込書が価格実現の大きな力になりますので、ぜひご協力をお願いします。
・事例申込みいただいた方には、令和6年1月以降に製品と価格をご案内いたします。

フリガナ			
氏名	(法人・営農団体の場合) 代表者: _____ 担当者: _____		
住所			
連絡先	TEL: _____	Email: _____	
JA	JAN名: _____	担当名: _____	
経営形態	<input type="checkbox"/> 個人(専業農家) <input type="checkbox"/> 個人(兼業農家) <input type="checkbox"/> 法人・会社 <input type="checkbox"/> 営農集団・長澤営農 <input type="checkbox"/> その他()		
品目	品目	作付面積(ha)	
作付	米		
その他	麦		
保有機	刈取回数	総積	型式
	ロ3兼 ロヤンマ	ロコバ ロ井開	
質問①	共同購入コンバインの購入意向はありますか。 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
質問②	意向ありの方は、以下をお聞かせください。		
質問③	購入希望時期 <input type="checkbox"/> 令和6年9月まで <input type="checkbox"/> 令和8年9月まで <input type="checkbox"/> 令和7年9月まで <input type="checkbox"/> 令和9年9月まで		
質問④	共同購入への期待について、皆様のお声をお聞かせください。(自由記述)		

個人情報の取り扱いについて、この申込書はJAグループ農機事業で取り扱う商品やサービス向上のために使用します。

JAグループ / 全農

秋田県購入事例など



令和6年2月27日には秋田県で『YH448AEJU』の取扱研修会が開催されました。研修会にはJA関係者やヤンマーアグリジャパンの担当者など約70名が参加しました。ヤンマーアグリジャパンの担当者がコンバインの機能や特徴を説明し、実機のデモンストレーションや試乗を実施しました。

6月19日・20日の2日間にわたって開催された「第35回秋田県JA農業機械大展示会」では、秋田県内で一般のお客様へ初披露となりました。



7月19日にJAあきた白神本店において、秋田県内で初めてとなるJAグループ共同購入コンバインの納車にあたり、出発式が行われました。県内受注第1号の能代市の柴田清一郎さんにはレプリカキーを贈呈し、関係者によるテープカットが行われました。

まとめ：JAグループ農機共同購入の今後の展望について

JAグループはこの共同購入を通じて、生産者の声を集めて低価格で高性能な農機の需要をメーカーに伝え、今後の開発や普及を促進する狙いがあります。農業経営におけるコスト低減は、農業者にとって非常に重要な課題であり、特に規模の大きな農機の導入には経済的負担が大きくなります。こうした負担を軽減することで、持続可能な農業経営を支援し、農業生産の向上にも寄与していきます。

生産資材部 農業機械課

☎018-880-1622



令和7年度の水稲生産技術対策について

令和6年は令和5年に続き夏季が高温となり、加えて令和2年以来の倒伏の多い年となりました。東北農政局作物統計調査や県地域振興局の水稲定点調査によると平年並を上回る作柄でありましたが、生産現場からは収量が平年作に達しなかったとの声も多くあり、地域差や圃場間差が例年にも増して大きい実態が推定されました。近年、異常高温や少雨、大雨、日照不足、強風が頻出するなど、気象は目まぐるしく変化しています。また、令和6年の倒伏は、節間長の伸長時期と高夜温や日較差の小さい期間が重なった影響が大きかったと推察されています。基本技術の確認と対応策技術の課題を整理し、令和7年度産に向けた生産技術対策の見直しを図り、近年の大雨や高温など厳しくなっている気象変化に対応した強い稲づくりと県産米の食味や品質の一層の向上と安定化を図っていく必要があります。



J A 秋田ふるさと管内
(農) さかえ
2024 5/21
可変施肥実証圃 (田植え)

1. 【気象変動リスクを軽減する総合的な土づくり】

倒伏が多かった令和6年を踏まえ生産基盤を見直す機会とし、土づくりについて改めて取り組む必要があります。高品質・良食味米を安定的に生産するための圃場条件は、排水性の向上や土壌養分の均一化、地力の増強や耕深の確保が挙げられ、これらにより根を健全に保ち、根域を深く拡大させ、生育途中の急激な葉色の低下や生育の停滞を防ぎ、登熟後半まで根の養水分吸収能力や光合成能力を高く持続させることが期待できます。

排水性を向上させるためには、暗渠、補助暗渠の施工によって透水性を改善します。排水不良田では、溝切り、明渠の施工等で表面排水を図ります。

近年の耕深は、浅くなる傾向にあり、少なくとも15cmは確保するようにします。ただし、深耕によって下層の養分の少ない土が混入したり、深耕に伴う適切な肥培管理を行う必要があるため、耕深は一挙に行わず、年数をかけて徐々に深くします。

また、定期的に土壌診断を行い、診断結果に基づき、資材の画一的な施用を見直し、必要な量の堆肥や土壌改良資材、化学肥料を施用しバランスの良い土壌養分の維持と適切な肥培管理により生育を安定化していくことが重要です。

2. 【適期の田植えと栽植密度の適正化】

田植えは、あきたこまち中苗の場合、県北（鷹巣）は5月15～20日頃、中央（秋田）と県南（横手）は5月20～25日頃を目安に行います。また、田植え時期に加え、地域にあった品種選定も重要です。

低温による初期生育の遅延を避け、出穂期の早期化による高温登熟の影響を軽減するため、極端な早植えや遅植えは、その後の気象経過により作柄や品質に大きく影響するため、ハウス内気温や灌水等に留意して健苗育成に努め、適期に田植えを行います。また、適正な種子予措を行うためにも、浸種水温の確保が難しい早植えを避け、計画的な作業に努めます。近年の栽植密度は低下傾向にあります。栽植密度の低下は、その後の茎数確保（穂数確保）に大きな影響を与え、作柄や品質・食味の低下も懸念されることから、品種特性を踏まえ、㎡当たり21～22株（70株／坪）を基本として、1株当たりのかき取りは3～4本を目安に実施します。



J A 秋田ふるさと管内
（農）さかえ
2024 5/31
活着した苗

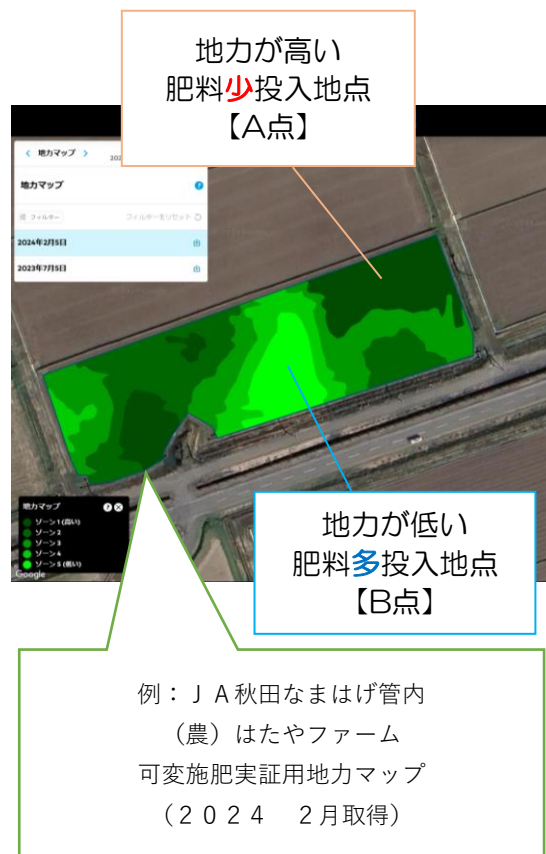
3. 【水管理による適正な生育量の確保】

本田の水管理は、安定した作柄を確保するため重要な技術です。特に、初期生育の良否は、その後の生育量や出穂時期、収量まで影響します。このため、活着後は、温暖な日に浅水、寒い日に深水とすることで、水温や地温を高め、初期生育の確保に努めます。中干しの開始時期は、中苗のあきたこまちでは、6号1次分けつが発生した時であり、中干しは遅れずに実施し、充実した有効茎の確保を図ります。中干し期間は7～10日位とし、田面に亀裂が1～2cm入り足跡が付く程度とします。過度の中干しは根を傷め、稲体の衰弱につながる等の悪影響があるので注意します。幼穂形成期から減数分裂期頃にかけて稲は、低温に弱い時期で、この時期に日平均気温20℃以下や最低気温17℃以下の低温が予想される場合は、深水管理とします。出穂後10日間は、湛水状態にして水を切らさないようにします。また、高温が続く場合は、田面水温が高くなることから、可能な限りの掛け流しや水の入れ替えに努め、その後は、間断かん水を基本に早期の完全落水は避け、品質向上に努め、高温時やフェーン現象等の乾燥した風が強い日は、可能な限り掛け流し等の水管理を行い、水分供給に努めます。



4. 【生育中期の適正な施肥管理】

生育中期の施肥管理は、理想生育量と比較する生育・栄養診断により適切に実施し、追肥の要否や施肥量の判断を行います。圃場間のバラツキが大きい場合は、圃場ごとに適期に生育・栄養診断を実施して対応します。㎡当たり籾数が過剰になると整粒歩合は低下し、米粒中の窒素含有率は高くなり、品質や食味が低下します。あきたこまちの目標収量を570kg/10aとした場合に必要なる㎡当たり籾数は30.3～31.5千粒であり、幼穂形成期の栄養診断による追肥により、目標の㎡当たり籾数の確保に努めます。中干し以降の葉色の低下は、下層への根の伸長を減少させ収量や品質へ大きく影響します。このため、肥効調節型肥料の利用や堆肥の施用による地力の向上を図り、葉色の低下を防止します。



5. 【雑草防除の徹底】

近年、田植え時期に気温が平年より高くなることもあり、雑草の発生と生育は早期化する傾向にあります。除草剤散布が遅れた圃場では、高葉齢になった雑草の取りこぼし事例が見られます。また、生育後半におけるノビエやホタルイ類等の発生が目立つ圃場も散見されます。雑草の多発は埋れた種子量を増加させるとともに斑点米カメムシ類などの害虫の発生にも影響します。このような多発圃場では、防除期間を長く確保することが必要となり、初期除草剤と一発処理除草剤の体系散布を行う必要があります。この場合、一発処理除草剤は、初期除草剤散布10日後から14日後までを目安に散布します。除草剤使用の際は、雑草の種類と量に応じた適切な除草剤を選択し適期に使用してください。また、使用上の注意を守り、除草剤使用后7日間止め水とし、水質汚染を防止します。除草効果を十分発揮させるためには、畦畔補修等の漏水対策や田面の均平、圃場条件に合わせた剤型の選択が望ましいとされています。また、水田周辺の下流など、水系環境に配慮し田植え前は、除草剤を使用し

6. 【いもち病防除対策】

本田におけるいもち病の発病主因は、育苗施設からの発病、感染苗の本田への持込み他、乾燥状態で冬を越した稲わら・籾殻です。従って、稲わらや籾殻を育苗施設から撤去し、適正かつ効果的な種子消毒、育苗期防除を行い、持込みを最小限に食い止めることが基本的な対策です。育苗期防除は、ベンレート水和剤、ビームゾルのいずれかで行う。本田期防除を兼ねた育苗箱処理剤を使用し、葉いもち病防除を行い、穂いもち病の被害を未然に防ぐよう努めます。なお、田植え機に施薬装置を用いた防除が省力で有効です。また、出穂前後が多湿の年は穂いもち病が多くなりやすいので、穂いもち病の適期防除に努めます。



J A 秋田ふるさと管内
(農) さかえ
2024 7/26
走り穂

7. 【紋枯防除対策】

穂ばらみ期～出穂期の発病株率が15%を超える場合は、出穂直前～穂揃期に茎葉散布剤で防除します。その際、薬剤が株元に到達するように散布します。粒剤使用の場合は、前年多発した圃場や本病を対象とした育苗箱施用剤を使ってない圃場に限りません。散布時期はモンガリット粒剤が出穂20～10日前、リンバー粒剤が出穂15～5日前に散布します。

8. 【斑点米カメムシ類防除対策】

本県の主要加害種であるアカスジカスミカメは、水田内外の除草対策が重要です。水田内にホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生すると、本種の水田内への侵入を助長するので、雑草防除を徹底します。また、畦畔・農道の除草対策として、出穂10日後頃に行う茎葉散布剤の散布当日から7日後までに草刈りを必ず行い、本種の増殖源となるイネ科雑草の除去に努めます。薬剤散布は、水田内に出穂したホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生している圃場、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田などに隣接した圃場、発生予察情報に基づいて多発が予想される場合は、出穂10日後頃の茎葉散布に加え、出穂24日後頃の2回目防除を必ず実施します。

9. 【冠水・浸水被害対策】

県内では令和4年から令和6年に連続して夏季の大雨による被害が発生しています。冠水、浸水被害を受けた稲は、被害に遭った生育時期や冠水、浸水の程度、時間、水温などの様々な条件によって、生理的かつ形態的变化を生じ、その程度によって減収を招くことがあります。水田を冠水、浸水させないための土木的な対策は地域全体の施策として進めていく必要があります。被害に遭った場合は、以下のことに留意します。

- 1) 冠水した稲体は、水分調節や肥料吸収等の機能が低下していることから、田面の過度の乾燥に注意します。
- 2) 冠水被害にあった場合は、稲体の抵抗力が低下し、いもち病にかかりやすくなるため注意します。発生した場合は、水面施用します。
- 3) 白葉枯れ病には6月中旬～7月上旬にオリゼメート粒剤を3～4kg/10a施用します。いもち病防除としてオリゼメート粒剤を使用した場合は、改めて散布する必要はありません。

10.【台風等による被害対策】

台風は、強い風雨を伴い倒伏や風水害、進路によってはフェーン現象や潮風害の原因となります。特に倒伏すると受光態勢が著しく悪化し、登熟低下による減収と穂発芽による品質低下を招くため、倒伏した場合は、対策として3つの事項について実施します。

- 1) 圃場の停滞水は、早めに排水します。
- 2) 早期に倒伏した場合は、速やかに可能な限り4株ずつ束ねて立て直し、穂が乾燥するようにします。
- 3) 登熟後期の場合は、早めに刈り取り、穂発芽した場合は、刈り分けし、品質の低下を防止します。

11.【適期の刈り取りと乾燥・調製】

早刈りによる青未熟粒の混入、刈り遅れによる胴割れ粒や白未熟粒の混入による品質の低下を防止するため、適期の刈り取りに努めます。刈り取り時期は、出穂期後の日平均気温の積算値を目安としますが、日照時間が平年より少ない場合は、出穂期翌日からの積算日照時間も考慮します。なお、圃場ごとに条件が異なることから、最終的な刈り取り時期の決定は、各圃場の籾の黄化程度（黄色＋白色）を確認し、黄化程度が90%の時期に達した時期で判断します。刈り取り作業は、乾燥・調製能力に合わせた作業計画を立てます。また、ントリーエレベーターやライスセンターを利用する場合は、早期に利用計画を組みます。乾燥と調整は、米を商品として仕上げる大事な作業です。作業の良否が米の品質や食味に影響するため、過乾燥を避け、籾摺り・米選は適正な処理量で行います。



J A 秋田ふるさと管内
(農) さかえ
2024 9/24
収量コンバインによる
刈り取り

(注) 記載内容については、令和6年度秋田県作況ニュース(第8号)を参考に抜粋掲載しておりますので、詳しくは秋田県農林水産部発行の「作況ニュース(第8号 総括編)」をご参照願います。



🌱 ご紹介

頑張れ受験生！「サキホコレ」を食べて咲き誇れ ～サキホコレ受験生合格祈願キャンペーン～

1月14日、秋田県やJ A全農あきたなどで構成される秋田米新品種ブランド化戦略本部は「サキホコレ受験生合格祈願キャンペーン」を秋田駅で開催しました。このキャンペーンは、受験生を応援するとともに、「ハレの日」や贈り物に「サキホコレ」を活用してもらおうと開催されました。秋田県神部秀行副知事やJ A全農あきたの椎川県本部長ほか関係者が、通学で秋田駅を利用する高校生などに「合格祈願」「吉兆来福」とパッケージに書かれた「咲き誇れおにぎり」を配布しました。



また、J R秋田駅の中央改札口前には合格を祈願する鳥居と合格祈願ボードが設置されました。鳥居前では関係者による祈願祭が行われたあと、関係者代表が絵馬型のシールに応援メッセージを書きボードに貼りました。合格祈願ボードにはサキホコレアンバサダーを務める秋田県出身の著名人からの直筆メッセージも寄せられています。受験生本人による合格祈願はもちろん、誰でも自由に受験生へ応援メッセージを贈ることができるように、絵馬型のメッセージシールとペンが用意され、早速たくさんのメッセージが寄せられています。合格祈願ボードと鳥居は3月24日まで設置されます。



令和6年産「サキホコレ」シンガポール店頭試食販売会を実施しました



12月13日～15日、20～22日の6日間シンガポールの明治屋の「Millenia Walk」「Great World」の2店舗で、秋田県産ブランド米「サキホコレ」の試食販売会を実施しました。



試食販売会では、サキホコレ300g、2kg、5kgのほか、気軽に食べられるパックごはんも販売しました。試食したお客様からは、「ご飯の粒が輝いている」「甘くて美味しい」などの感想をいただきました。

「サキホコレ」の品質や食味の良さをPRし、海外でも秋田米ファンを増やし世界的なトップブランドの確立を目指します。

お知らせ

2月14日は大切な人にお花を贈る日。



お花に想いを込めて

Flower Valentine 2025

フラワーバレンタイン

キャンペーン店舗一覧

- | | | |
|--------------------|------------|----------------------|
| 秋田市 * (有)秋田中央生花 | * 花徳 | 能代市 * (株)花ハウス・グレボ能代店 |
| * (株)花屋 秋田フラワーセンター | * フラワーおの | 横手市 * 花の店ササキ |
| * (株)花のヤマト | * ブルーパレット | 仙北市 * 花ハウス・グレボ |
| * フラワーギフト花太郎 | * マルワ生花店 | 大館市 * (有)アバフローリスト |
| * フラワーショップかおる | * 花もみいる | 湯沢市 * (有)花伝伊藤伝作商店 |
| * FLOWER COLLABO | | 男鹿市 * 花の守屋商店 |
| 大仙市 * (有)ちぐさ生花店 | * (有)花の店清花 | 北秋田市 * (有)たかのすフラワー |
| * 丸谷生花店 | * (有)三浦生花店 | 由利本荘市 * フラワーショップ牧野 |

特別協賛

(順不同)



秋田県産のお花で感謝の気持ちを伝えてみませんか 🌹

Za・あぐりふぉーむ
Zennoh-akita agriculture+reform



J A全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふぉーむ
第60号 令和7年2月6日発行

編集・発行 J A全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207の24 018-880-1011